ISSN 1810-1186

政大日本研究

第九號

【特別寄稿】

1. 名詞修飾節と文の意味階層構造 ..... 益岡隆志（1）

2. 『記紀』に見る神武天皇像—作品論を視座として..... 鄭 家 瑜（19）
3. 中世後期加賀国白山麓の村の由緒..... 永井隆之（55）
4. 判断動詞“～視する”についての一考察..... 蘇 文 郎（83）
5. 日露戦争期における日本帝国の樺太植民地化への眼差し
—志賀重昂の地理学知識を通して ..... 楊 素 霞（105）

2012年1月

國立政治大學日本語文學系

政大日本研究

CHENGCHI JOURNAL OF JAPANESE STUDIES

Volume 9, January 2012

編輯委員會

召 集 人：蘇文郎　國立政治大學日本語文學系教授兼系主任

總 編 輯：王淑琴　國立政治大學日本語文學系副教授

編輯委員：斎藤正志　中國文化大學日本語文學系副教授

劉怡伶　東吳大學日本語文學系副教授

鄭家瑜　國立政治大學日本語文學系助理教授

孫克蔭　國立政治大學日本語文學系講師

助理編輯：賴庭筠　國立政治大學日本語文學系助教

臺灣大學圖書館
藏书章

出版者：國立政治大學日本語文學系

編輯者：國立政治大學日本語文學系政大日本研究編輯委員會

發行者：國立政治大學日本語文學系

地　址：116 臺北市文山區指南路二段六十四號

國立政治大學日本語文學系政大日本研究編輯委員會

電　話：(02) 2939-3091*62166

傳　真：(02) 2938-7686

E-mail：japanese@nccu.edu.tw

ISSN：1810-1186

中華民國一〇一年一月出版　版權所有 請勿翻印

ISSN 1810-1186

政大日本研究

第九號

【目錄】

【特別寄稿】

1. 名詞修飾節と文の意味階層構造 ..... 益岡隆志（1）

2. 『記紀』に見る神武天皇像—作品論を視座として .. 鄭 家 瑜（19）
3. 中世後期加賀国白山麓の村の由緒..... 永井隆之（55）
4. 判断動詞“～視する”についての一考察..... 蘇 文 郎（83）
5. 日露戦争期における日本帝国の樺太植民地化への
   眼差し—志賀重昂の地理学知識を通して..... 楊 素 霞（105）

2012 年 1 月

國立政治大學日本語文學系

CHENGCHI JOURNAL OF JAPANESE STUDIES

Volume 9 January 2012

【a special contribution】

1. Adnominal Clauses and Semantic Layer Structure in Japanese
..... Masuoka Takashi (1)

1. Portrait of Emperor Zinnmu in "Kojiki" and "Nihonsyoki"
-- Viewing from Theory of Works ..... Cheng, Chiayu (19)
2. Tales of the village of Mt. Hakusan, Kaga Province
in the late middle ages .....Nagai Ryuji (55)
3. An Analysis of the Judge-Verb "~*Si suru*" in Japanese
..... Soo, Wen-Lang (83)
4. The Colonization of Karahuto in the Eyes of the
Japanese Empire During the Russo-Japanese War:
On the Geographical Knowledge of Shiga Shigetaka
..... Yang Su Hsia (105)

Department of Japanese

National Chengchi University

政大日本研究【第九號】
2012年1月・頁1~18

名詞修飾節と文の意味階層構造

益岡隆志*

要旨

本稿の目的は、内容節を中心に文の意味階層構造が名詞修飾節の現れ方にどのように関係するかを明らかにすることである。本稿では、文の意味階層構造の概要を述べたうえで、(i) 基本型内容節とトノ内容節は、それぞれ命題の階層の内容節とモダリティの階層の内容節として機能するという点で意味階層に関して対立的(相補的)な関係にあるということ、及び、(ii) トイウ内容節は引用(メタ)用法とカテゴリー用法を持ち、すべての意味階層に対応するということを指摘する。

キーワード: 文の階層構造、名詞修飾節の基本型と特殊型、内容節、引用系接続形式

* 神戸市外国語大学教授、国立国語研究所客員教授

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

名詞修飾節と文の意味階層構造

益岡隆志

1　はじめに

近年、言語研究（理論言語学）において文構造の階層性を重視する研究が現れていることが注目されるが[1]、日本語研究では以前から同様の研究が行われている。

日本語における文の階層構造の研究は 1960 年代から本格化した[2]。文の階層構造の研究は、述語後置型でありかつ膠着語であるという日本語の特徴を活かした文構造の研究を代表するものである。述語が後置され、かつ述語部分に文法情報が順次表出されるという特徴から、日本語は文末において文成立のありようが見えやすい。その点で、文構造を階層的なものとして捉えるという見方を生み出しやすい言語であると言うことができる。

本稿では、以下、日本語における文の階層構造の研究を概観したうえで、その観点から、内容節を中心に名詞修飾節の分析を試みる。

2　文の意味階層構造

まず、文の階層構造の研究を概観しておきたい。

2．1　南不二男の研究

日本語における文の階層構造の研究を代表するのは南（1974、1993）の研究である。ここでは、南の見方の要点を益岡（近刊）から引用しておく。

南は日本語の言語事実を観察するなかで、文構造に 4 つの階層が

[1] 遠藤（2009a、2009b）、長谷川編（2007、2010）などを参照されたい。
[2] 研究史については、Narrog（2009）による詳しい解説が参考になる。

認められるとする文の階層構造のモデルを構築した。南が構築した文の階層構造は日本語の複文の観察・分析に基づくものである。南は複文中の従属節（南は「従属句」と呼ぶ）にどの範囲の要素が現れ得るかに着目し、その範囲が狭い「A 類」（例えば、継続の意味を表す「～ながら」の節）、その範囲が中間的である「B 類」（例えば、「～ので」の節）、その範囲が広い「C 類」（例えば、「～が」の節）という 3 つの類を区別した。そのうえで、南は文の構造を A 類の要素の階層、B 類の要素の階層、C 類の要素の階層、さらに従属節には現れず文のレベルにのみ現れる要素の階層（D の階層）という 4 つの階層で構成されるものと見た。このように、南による文の階層構造の見方は文中の要素分布に基づいている点が特徴的である

南（1974）によれば、例えば（１）の文は（２）に示されるような階層構造を持つとされる。

（１）　そうだな、荷物はたぶんきのう横浜についただろうよ。
（２）　［そうだな［荷物はたぶん［きのう［横浜につい］た］だろう］よ］

南の分析を受け、田窪（1987）は、南の 4 つの階層に対応する意味タイプを「動作・事態・判断・伝達」と特徴づけた。これは、文が意味的には「動作の階層・事態の階層・判断の階層・伝達の階層」という 4 つの階層からなるという見方を提出したものである。田窪の指摘によって、文の階層構造に意味的基盤があることが示されたと言うことができる。

２．２　私見の概要

南（1974、1993）と田窪（1987）の見方を念頭に置き、筆者は益岡（1997、2007、近刊）において、（３）のような文が（４）に示すような意味階層構造（便宜上、ローマ字表記を用いる）を持つと考

えた[3]。

（3）　ねえ、どうやら昨夜激しく雪が降ったようだよ。

（4）nee dooyara sakuya hagesiku yuki ga hut-ta yooda yo

P1　hagesiku yuki ga hut

A　C　H

P2　sakuya [hagesiku yuki ga hut] ta

A　C　H

M1　dooyara [sakuya hagesiku yuki ga hutta] yooda

A　C　H

M2 nee [dooyara sakuya hagesiku yuki ga hutta yooda] yo

A　C　H

（4）における「P1」、「P2」、「M1」、「M2」はそれぞれ、「一般命題の階層」、「個別命題の階層」、「判断のモダリティの階層」、「発話のモダリティの階層」を表している。また、各階層に現れる諸要素間の関係を表現するために、「H」（「主要部」(head)）・「C」（「補足部」(complement)）・「A」（「付加部」(adjunct)）という符号を用いている。これらの要素のあいだには、補足部と付加部が主要部に従属するという意味的な依存関係が成り立つ。南（1974、1993）・田窪（1987）の見方に対する筆者の見方の特徴は、意味的な階層を命題の階層とモダリティの階層に大別する点である。すなわち、「一般命題の階層」と「個別命題の階層」は命題の階層に属し、「判断のモダリティの階層」と「発話のモダリティの階層」はモダリティの階層に属するということである。

文の階層構造の見方における大きな課題（論点）の1つは、主題（「～ハ」）を階層構造のなかにどう位置づけるかという問題である。主題卓越言語である日本語では、文構造において主題をどう位置づ

[3] 本稿では、益岡（1997、2007、近刊）で用いた「意味的階層構造」という呼称を「意味階層構造」という名称に改めることとする。

けるかが重要な問いとなる[4]。

南（1974、1993）は先の（２）に示されているように、主題をＣの階層に位置づけている。

（２）　［そうだな［荷物はたぶん［きのう［横浜につい］た］だろう］よ］

それに対し筆者は、主題をモダリティの階層に位置づける。より具体的には、主題は判断のモダリティの階層を基本に発話のモダリティの階層に及ぶのではないかと考えている。主題を提示することを発話行為理論（Speech Act Theory）風に「提題行為」と捉え、また、モダリティの領域を話し手の行為がかかわる領域とみなすならば、提題は基本的には話し手の判断行為に関係し、さらには話し手の発話行為に及ぶということになる。

次の（５）と（６）では、「荷物は」、「その人たちは」は「ついただろう」、「応援してくれるだろう」という真偽判断の表現と呼応することから、提題は判断のモダリティの階層にかかわるものと見られる。

（５）　荷物はたぶんきのう横浜についただろう。

（６）　その人たちはこれからも君を応援してくれるだろうから、頑張って自分を見つめなさい。

（佐渡裕「僕はいかにして指揮者になったのか」）

それに対して（７）と（８）では、提題は発話のモダリティの階層にかかわるものと見られる。この場合、「荷物は」はそれぞれ「置いてください」という要求表現、「置きましょう」という勧誘表現と呼応している。

[4] 主題がかかわる言語類型については、Li and Thompson (1976)、益岡（2007）を参照のこと。

（７）　荷物はそこに置いてください。

（８）　荷物はここに置きましょう。

３　意味階層構造と副詞節

文の階層構造は複文の分析に有効性を発揮する。なかでも副詞節を対象とする研究は、文の階層構造の研究を進めるうえで重要な役割を果たし、大きな成果を収めてきた。日本語の副詞節は節末で多様な接続形式を使い分けるのであるが[5]、この点が階層構造の研究を推進するうえで有利に働いたことは疑いない。

３．１　南の分析

南（1974、1993）は、2.1 で述べたように、副詞節における要素の分布に基づいて A 類・B 類・C 類の 3 類を区別した[6]。このような区別を考えるうえで、日本語の副詞節における接続形式の多様性が重要な手掛かりを与えたことは上述のとおりである。

A 類・B 類・C 類の 3 類というのは、次のとおりであった。南によれば、A 類には「～ナガラ」（例えば、「タバコをのみながら」）などの句が、B 類には「～ノデ」（例えば、「タバコをのんだので」）などの句が、C 類には「～ガ」（例えば、「タバコをのむだろうが」）などの句が、それぞれ属するものとされる。A 類の「～ナガラ」には出現しない「た」が B 類の「～ノデ」には出現し、A 類の「～ナガラ」・B 類の「～ノデ」には出現しない「だろう」が C 類の「～ガ」には出現する、といった要素分布のあり方に目が向けられたのであった。

３．２　条件節と接続形式の分化

筆者が試みた階層構造にかかわる副詞節の分析事例に、益岡（1997、

---

[5] 日本語はこの点で中国語とは大きく異なっている。

[6] 南の分類に関連して、三上（1953、1959）の見方も参照されたい。

2007）における条件節の分析がある。

条件節は上述の副詞節における接続形式の多様性を示す代表例であり、レバ・タラ(バ)・ナラ(バ)を中心とする接続形式の複雑な使い分けが観察される。南（1974、1993）はレバ・タラ(バ)・ナラ(バ)をB類と見ているが[7]、益岡（1997、2007）では、レバ・タラ(バ)・ナラ(バ)をバ形式の分化と捉えたうえで、これらのあいだには次に示すような条件設定における意味階層の違い（条件設定がどの意味階層でなされるかの違い）があるという見方を提出した。

レバ：一般命題の階層における条件設定

（9）　風が吹けば桶屋が儲かる。

タラ(バ)：個別命題の階層における条件設定

（10）　結果が出たら知らせてください。

ナラ(バ)：判断のモダリティの階層における条件設定

（11）　あなたが賛成してくれるなら、この案でいこうと思う。

時間性にかかわりを持つ「タリ」という形態が介在するタラ(バ)は、特定の時点での事態の実現が問題となる。また、判断にかかわりを持つ「ナリ」という形態が介在するナラ(バ)は、仮に事態が成り立つことを想定するという仮定の意味が問題となる。同じバ形式がレバ・タラ(バ)・ナラ(バ)という3つの形に分かれている点に条件設定における意味階層の違いがあるということになれば、このような接続形式の分化は上述の意味階層構造を反映したものであると見ることができるわけである。

4　意味階層構造と名詞修飾節

以上述べた文の意味階層構造の概要をもとに、この観点から名詞修飾節を見ていくことにする。

[7] この点についても、三上（1953、1959）を参照のこと。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

4．1　名詞修飾節の基本型と特殊型

名詞修飾節の分析には、寺村（1975-1978）のいう「内の関係」と「外の関係」（内容補充・相対的関係）の区別が基本的な枠組みとしてよく取り上げられるが、私見（益岡(1997、2002)）では、名詞修飾節についても副詞節の場合と同様に接続形式に着目することが重要である。名詞修飾節における接続形式とは、修飾部と被修飾名詞（主名詞）を繋ぐ形式のことである。

接続形式の現れ方に着目すると、名詞修飾節は大きく「基本型」（接続形式が現れないもの）と「特殊型」（引用系接続形式「トノ・トイウ」が介在するもの）に分けられる。日本語の名詞修飾節の特徴は、基本型が幅広く用いられること、及び、接続形式として「引用系」が発達していることである。

意味階層との関係を検討する前に、まず基本型と特殊型の概要を述べておきたい。基本型は接続形式に縛られないことから、修飾部と主名詞のあいだに多様な意味的関係が成立する[8]。その主要なタイプとしては、次の例のような「内の関係（関係節）・内容節（同格節）・相対節」の 3 つが挙げられる。

（12）［内の関係］あなたがだました人
（13）［内容節］人をだました罪
（14）［相対節］人をだました罰

内の関係では、修飾部の述語と主名詞のあいだに格関係が成り立つ。（12）においては、「（その）人をだました」という関係が成立している。内容節では、修飾部が主名詞の内容を説明する。（13）の例で言えば、「人をだました」というのが「罪」の内容である。相対節は、修飾部と主名詞が相対的な関係で結びつくものである。例えば

[8] 詳細については、益岡（2010）を参照されたい。

（14）の場合、「人をだました」結果として「罰」が生じるという関係が認められる。

基本型とは対照的に、有形の接続形式が介在する特殊型は、修飾部と主名詞のあいだの意味的な関係が限定される。具体的には、基本型に認められる3つのタイプのうち、特殊型において成立するのは（15）のような内容節（同格節）だけである。

（15）　人をだましたという罪

（15）では、修飾部の「人をだました」が主名詞「罪」の内容を表している。そこで、内容節については（13）のような基本型と（15）のような特殊型の両方が成り立つことになる。

4．2　内容節と意味階層構造

次に、名詞修飾節のなかの内容節を対象に文の意味階層構造の観点から分析を試みたい。

南（1974、1993）は名詞修飾節を全体としてA類・B類と見ているのであるが[9]、筆者（益岡(1997、2002)）の見方によれば、内容節については基本型の内容節（以下、「基本型内容節」）と「トノ」を取る内容節（以下、「トノ内容節」）は対立的（相補的）な関係にある。すなわち、基本型内容節は命題の階層の内容節として、トノ内容節はモダリティの階層の内容節として、それぞれ機能するものと考えられる。

以下、この点を具体的に見ていくことにしよう。まず基本型内容節が命題の階層の内容節として機能するという点であるが、これには（16）のように一般命題の階層で働く場合と、（17）のように個別命題の階層で働く場合がある。

[9] 三上（1953、1959）も参照のこと。

（16）［一般命題の階層］男性が化粧をする風習
（17）［個別命題の階層］男性が化粧をした事実

（16）の修飾部「男性が化粧をする」は時空間を超えたタイプとしての事態を表しており、他方（17）の修飾部「男性が化粧をした」は特定の時空間に出現する個別的な事態を表している。

それに対して、トノ内容節のほうはモダリティの階層の内容節として機能する。すなわち、引用名詞（思考名詞・発話名詞）の性格を持つ主名詞がそれに先行する修飾部にいわば‘引用の場’（思考内容・発話内容）を開き、引用系のトノが修飾部と主名詞を接続するということである。

モダリティの階層で機能するというとき、より具体的には、判断のモダリティの階層で機能する場合と発話のモダリティの階層で機能する場合がある。次の（18）が判断のモダリティの階層で機能する例であり、（19）が発話のモダリティの階層で機能する例である。これらの例における主名詞の「見方」、「指示」はそれぞれ思考名詞、発話名詞である。

（18）［判断のモダリティの階層］
日本の景気は回復するだろうとの見方
（19）［発話のモダリティの階層］
できるだけ早く報告書を提出せよとの指示

当該の内容節がどの意味階層を表すかは、その内容節の主名詞がどの類の名詞であるかという点に関係する。すなわち、内容節の主名詞の類に基づき、それが関係する内容節の意味階層を次のように指定することができる[10]。

[10] この点については、大島（2010）を参照されたい。

「風習」類 ⇒ 一般事態の階層の内容節
「事実」類 ⇒ 個別事態の階層の内容節
「見方」類 ⇒ 判断のモダリティの階層の内容節
「指示」類 ⇒ 発話のモダリティの階層の内容節

付言ながら、内容節における主題の出現の可否は関係する意味階層により決定される。主題が出現できるのはモダリティの階層（判断のモダリティの階層、及び、発話のモダリティの階層）であることから、主題はトノ内容節にのみ出現可能である。この点については、次の例を見ていただきたい。(20)（21）が許容されるのは、「男性は」が主題の意味ではなく対比の意味を表す場合である。

（20） #男性は化粧をする風習
（21） #男性は化粧をした事実
（18） 日本の景気は回復するだろうとの見方
（22） 報告書は一週間以内に提出せよとの指示

以上見たように、基本型内容節とトノ内容節は意味階層に関して対立的（相補的）な関係にある。ちなみに、接続形式を取らない内の関係は、基本型内容節と同じく命題の階層の節として機能するのが基本であるが、基本型・特殊型の区別を持たないことと関係して、次の（23）のように、命題の階層を超えることがあり得る。

（23） 若者がみんな見ているだろう番組

5 名詞修飾節の特殊型

次に、「トイウ」を取る内容節（以下、「トイウ内容節」）を加え、特殊型についてさらに詳しく観察してみたい。

5．1　引用系接続形式の分化

引用系接続形式には、引用を表す「ト」という形態を共有する「トノ」と「トイウ」という2つの形式の分化が認められる。両者の違いは、トノに引用性の表示機能（「引用(メタ)用法」）が見られるのに対し、トイウには引用性の表示機能に加えカテゴリー関係の表示機能（「カテゴリー用法」）が見られるという点である[11]。

引用性の表示機能（「引用(メタ)用法」）は両者に共通するものの、この機能に特化した形式であるトノは引用性の特徴をより強く備えている。次の（24）の例はこの点をよく示すものである。

（24）　首相周辺からはこうした「菅流」を歓迎する声が上がる一方、参院選の失敗例があるだけに「自信をつけてから何か発信するたびに、失敗して萎縮するという繰り返しにならないか」（官邸スタッフ）との声も上がる。とはいえ、発言内容自体には小泉純一郎元首相のような派手さや力強さはなく、迫力もいまひとつ。独自のツールで国民に直接訴えかけようという意識もまだ低い。

（朝日新聞 2010 年 10 月 16 日）

「「自信をつけてから何か発信するたびに、失敗して萎縮するという繰り返しにならないか」との声」という部分は、実際の言葉を直接に引用する表現として「トノ」が使用されている。対照的に、「独自のツールで国民に直接訴えかけようという意識もまだ低い」という部分では、そうした意識が現実に存在するものではないため、当該の内容が「トノ」の使用によって直接に引用されることにはならない。

トノのほうが引用性の特徴をより強く備えているという点は、（25）のような表現でも確認することができる。

[11] 三上（1959）、田窪（1989、2002）、藤田（2000）を参照のこと。

(25)　帰国されたとのこと、…。

相手（聞き手）の言葉を受けてそれに対するコメントを提示するといった場合、相手（聞き手）の言葉を直接に引用する形を取ることが望ましい。そのような表現には、「トイウ」が介在する「トイウコト」よりも「トノ」が介在する「トノコト」のほうが適している。

5．2　トイウ内容節と意味階層

トイウ内容節についてさらに考察を続けたい。トイウ内容節は「X トイウ Y」の表現式型を取る。この表現式型は、X の部分に入る対象が名詞から命題の階層を経てモダリティの階層に及ぶという点で汎用的である。

「X トイウ Y」の表現式型は引用(メタ)用法とカテゴリー用法を持つ。この点を、まず X が名詞である場合について見てみよう。引用(メタ)用法においては、Y が構造的にも意味的にも主要部として機能する。次の（26）（27）が引用(メタ)用法の例である。(27) では、カギ括弧の使用により引用であることが明示されている。

(26)　田中さんというお客さんがお見えになりました。

(27)　「成熟拒否」という病　　（片田珠美「一億総ガキ社会」）

注目すべきは、引用(メタ)用法がもう 1 つの用法であるカテゴリー用法を派生し得るという点である。例えば、上の（27）は「成熟拒否」を「病」というカテゴリーで捉えており、その点で「「成熟拒否」は病だ」というカテゴリー関係を表す表現と対応する。

カテゴリー用法というのは、このように、X が属するカテゴリーを Y が表示するというものである。この用法では、構造的な主要部は Y であるが、意味的には X が主要部となり、Y はそれが属するカテゴリーの情報を付与する働きを持つという点が特徴的である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com